

## 医学研究センター

## 医学研究センター

松下 祥  
(センター長)

2011年の年頭より理事長の主導のもと、米国の Mayo Clinic をお手本として本学の発展を図っていこうとする勉強会活動が始まっています。Mayo Clinic は地域医療への貢献からスタートして医学校を有するようになった米国屈指の病院であり、ノーベル賞学者を輩出していることからわかるように、「scholarly な環境なくして professional な診療活動なし」を基本姿勢のひとつとしています。その意味でも、研究活動を発展させようとする姿勢は本学の重要な姿勢の一部であります。

研究活動においては、それぞれの基本学科（旧講座）で行われる活動以外に、複数の基本学科で構成するプロジェクト研究に競争的研究資金を提供する「学内グラント」のシステムが動いています。このような研究環境の整備は2005年に設立された医学研究センターの主導で進められています。医学研究センターは以下のような7部門で構成され、それぞれが異なる視点から研究環境の整備にあたっています。1) 研究支援管理部門：外部資金獲得の支援や学内グラントに関わる、2) 知財戦略研究推進部門：知的財産の管理やTLO活動に関わる、3) 共同利用施設運営部門：各種共同利用施設の運営に関わる、4) 安全管理部門：RI, DNA, 薬物, 環境, 動物, 感染など、研究活動における安全管理に関わる、5) フェローシップ部門：大学院生以上助手未満への経済的支援に関わる、6) 研究主任部門：基本学科と医学研究センターの情報共有に関わる、7) 研究評価部門：研究活動の内部評価や外部評価に関わる。

このような活動の中でも、とりわけ知的財産の管理には本学の特色が良く反映されています。21年度の知財活用実績の統計によると、本学は単科系医科大学では全国第1位、私立大学全体では日大と慶應義塾に続いて第3位、国内全体では第17位につけています。わかりやすく言えば、「特許を書いてそれをお金にしているトップ大学のひとつ」ということになりましょうか。

しかし、多くの大学の例に漏れず、本学は研究活動に関与する若手の人材不足に悩んでいます。2002年に創設されたゲノム医学研究センターは、このような環境の中であって大健闘している本学のホープではありますが、医学部本体の研究者層の厚みを増やす必要性を叫ぶ声は年々大きくなるばかりです。社会人大学院の充実と実質化はこのような状況を打破するために少しずつ貢献してくれています。病院を含む全学的な新たな取り組みとして、専門医資格と博士号取得を同時にめざす臨床研修プログラムの充実、MD, non-MD への大学院奨学金システムの充実、などを掲げ、この問題を解決しようと努力しているところであります。

## 医学研究センター

## 研究主任部門

池淵 研二

(部門長)

## 1. 人事

副部門長として総合医療センターの田丸淳一先生に加わっていただき、部門会議でいろいろなアイデアを出していただけることとなった。

部門員として町田早苗氏に加わっていただき、学内グラント成果発表会の運営、会場準備、開催通知、開催掲示、抄録集編集などいっさいを担当していただくよう体制整備を行った。

## 2. 企画

## (1) 学内グラント受賞者成果発表会

平成23年度も7月と2月に定例開催することができた。7月の発表会では5人の受賞者から成果発表が行われ、大学院生21人を含め41人の参加があった。毛呂と日高と川越キャンパスを連携した形で発表および質疑応答ができる体制整備もできた。また成果発表会に参加することを大学院博士課程の履修単位として認定いただけただお蔭で、大学院生の参加数が目立って多くなってきており、今後の参加者数増加も期待される(表参照)。

今後の課題として医学部・医療学部の学生、および大学院修士課程の学生の参加があるような会にしていき、若い頃から埼玉医大の中で実践されている研究活動に触れる機会を提供できるように整備していくことを考えていきたい。

## 表

	開催日	参加者数	(内)大学院生数
第1回学内グラント成果発表会	平成22年7月23日	58人	8人
第2回学内グラント成果発表会	平成23年2月25日	41人	1人
第3回学内グラント成果発表会	平成23年7月22日	61人	21人

## (2) 研究室紹介ホームページの立ち上げ準備

学内研究者の活動を相互に知り合える機会を設けることを目的に、ホームページ上に研究室紹介コーナーを設置することを準備してきた。最終的には2通りの方法でホームページ(HP)上に掲載する予定とした。

- 1) 各基本学科の研究室紹介として基本学科名から各研究室で作成した研究室紹介にリンクさせる。
- 2) TOPICSとして投稿のあった研究室を紹介する。  
運用にあたって以下の4点を確認した。
  - ①なお当面公開は学内HPのみにすることとし、学外HP公開についてはHP実務委員会の許可が必要になるので様子をみて公開を考えることにした。
  - ②リンクをはる分については、内容は各研究室の責任に任せることとする。
  - ③トピックスとして紹介する分については、内容は主任部門会議で担当者(輪番制か固定制)を決めて内容に逸脱している箇所がないかどうかを、アップする前に査読する。紹介していただきたい項目としては、現在埼玉医科大学雑誌に研究室紹介の形で投稿していただいている際の編集部からの依頼項目と同じ項目でお願いする。
  - ④トピックスとして、さらにニュース性を大切にしたい、研究室で新たな発見があった内容を、クローズアップして紹介していただくスタイルでも採用していきたい。

## 医学研究センター

## 共同利用施設運営部門

坂本 安  
(部門長)

共同利用施設運営部門は、本学における研究の遂行を支援するための学内の共同利用の研究施設が、臨床及び基礎医学研究の推進・発展の基盤的役割を果たすための統括的な活動を行っています。時代や研究会を取り巻く環境の変化に依存して研究目的・内容は変遷しており、施設の用途や使命も流れに常に対応させなければならないと考えられます。また、本部門は毛呂山キャンパス中央研究施設と川越キャンパスの総合医療センター・研究部等と連携し、埼玉医大の全研究者への支援についても検討しています。

## 【本年度の活動】

- ①前年度に毛呂山キャンパス・中央研究施設実験動物部門において、一階洗浄滅菌室作業環境が高温多湿であるため職員の作業中の熱中症等が危惧されたことに伴い、松下祥医学研究センター長ならびに産業医の先生方にご尽力を頂き、空調設備の改善に関する要望書を提出し、ご検討頂いておりましたが、本年3月には整備が完成し、夏期における作業環境が大幅に改善されました。
- ②以前から松下祥医学研究センター長により企画されていましたが、以下の1)～3) 事実に鑑みて共同利用実験室の開設が急務と考えられたこと、また、本学でもこのようなシステムを試行する時期が来ていると判断されたことから、3月8日にセンター長と本部門とで共同利用実験室に関する企画書を提出致しました。
  - 1) 科研費を持って埼玉医科大学に赴任して来られる若手を中心に、使い切れなかった科研費を返納する事態が生じ、実験場所が確保できず研究の遂行が出来なかった例が複数あることが判明した。
  - 2) 最低限の実験室の開設のために必要な備品は、各基本学科に中古品の供出により調達可能と予想された。
  - 3) 本学の中央研究施設は「測定室」の機能を持つが、実験スペースはそれぞれの基本学科やグループが占有しているものしか無く1)を生む結果となる。米国では30年以上前から、また日本の先進的の大学では15年ほど前から、占有を許さない共同利用実験室の整備が進み、円滑に利用されている例が多い。

結果として、第2研究棟3階に当該共同実験室を設置する運びとなり、学内に中古研究機器の供出を呼びかけたところ、多数の協力が得られ整備が進められました。また、利用規程、利用申請書類等も整えられましたが、東日本大震災に伴う電力量の低下により節電を優先させる必要性から9月の開設予定を延期し、現在実験室内部の整備を進めながら、新たな開設時期について検討しています。

## 【研究機器の整備等】

- ①性能劣化により買い替え申請が提出されていた透過型電子顕微鏡〔日本電子：JEM-1400 (HC-FC)〕に関して22年度私学助成金・設備整備助成に申請し採択されました。この装置は、毛呂山キャンパス・中央研究施設形態部門に設置され、今年度より運用が開始されています。また、RI施設の液体シンチレーションカウンターも老朽化に伴い、買い替えて頂ける運びとなっています。

## 【テクニカルセミナーの開催等】

- ① 2011/12/01 16:30～ : 全自動細胞分離装置『RoboSep』装置及び活用事例
- ② 2011/11/17 16:00～ : 集積流体回路を用いた遺伝子解析技術
- ③ 2011/09/28 16:00～ : 臨床プロテオーム解析の最新技術
- ④ 2011/07/07 10:00-17:00 : 【in vivo 光イメージング装置・Clairvivo OPT (島津製作所) 取り扱い説明会・第2回】
- ⑤ 2011/07/06 10:00-15:00 : 【in vivo 光イメージング装置・Clairvivo OPT (島津製作所) 取り扱い説明会・第1回】
- ⑥ 2011/07/06 14:00-15:00 : 【in vivo 光イメージング装置・Clairvivo OPT (島津製作所) 取り扱い説明会・セミナー形式】
- ⑦ 2011/01/27 16:00～ : 表面プラズモン共鳴 (SPR) 装置テクニカルセミナー (今さら聞けない 相互作用検出の初歩)

**【ホームページ等】**

本部門の関わるホームページは、<http://smswww.kyouri/index.html> です。本学共同利用施設のあらゆる箇所にリンクしています。

医学研究センター

安全管理部門

赤塚 俊隆  
(部門長)

1. 部門構成

部門長 赤塚俊隆：微生物学（教授）

**感染分野**

部門長 赤塚俊隆：微生物学（教授）  
 部門員 渡辺典之：臨床検査医学（中央検査部）（技師）  
 井上公仁子：ゲノム医学 遺伝子情報制御部門（講師）  
 森 隆：総医セ 研究部（准教授）  
 宮里明子：国医セ 感染症・感染制御科（講師）  
 佐藤正夫：保医学部 健医科学科（准教授）

**廃液等環境分野**

副部門長 吉田喜太郎：医学基礎 化学（教授）  
 部門員 西本正純：ゲノム医学 RI 実験施設（講師）  
 森 隆：総医セ 研究部（准教授）  
 安達淳一：国医セ 脳神経外科（講師）  
 野寺 誠：保医学部 健医科学科（准教授）

**DNA 分野**

副部門長 三谷幸之介：ゲノム医学 遺伝子治療部門（教授）  
 部門員 森 隆：総合医療センター 研究部（准教授）  
 池田正明：生理学（教授）  
 松井政則：微生物学（准教授）  
 千本松孝明：薬理学（准教授）  
 井上郁夫：内分泌内科・糖尿病内科（准教授）  
 江口英孝：先端医療開発センター（准教授）  
 荒木智之：分子生物学（講師）  
 池田和博：ゲノム医学研究センター（講師）  
 加藤英政：ゲノム医学研究センター（講師）  
 伴場裕巳：保健医療学部 健康医療科学科（講師）

**動物分野**

副部門長 森 隆：総医セ 研究部（准教授）  
 鈴木政美：中央研究施設 実験動物部門（准教授）  
 西川 亮：国医セ 脳神経外科（教授）  
 鈴木正彦：保医学部 健医科学科（教授）

**薬物分野**

副部門長 丸山 敬：薬理学（教授）  
 西本正純：ゲノム医学 RI 実験施設（講師）  
 岸野 亨：総医セ 薬剤部（課長）  
 藤田健一：国医セ 腫瘍内科（助教）  
 鈴木正彦：保医学部 健医科学科（教授）

## RI 分野

副部門長 犬飼 浩一： 中央研究施設 RI 部門（准教授）  
飯塚 裕幸： 中央研究施設 RI 部門（助教）  
西本 正純： ゲノム医学 RI 実験施設（講師）  
本田 憲業： 総医セ 放射線科（教授）  
西川 亮： 国医セ 脳神経外科（教授）  
間瀬 年康： 保医学部 健医科学科（教授）

## 2. 今年度の活動

### 感染分野

病原性微生物等管理委員会が発足して以来、懸案となっていた「病原体等管理規程」の案がようやく作られ、年度内に策定の運びとなった。ゲノム研究所ではいち早く「感染動物実験（ウイルス等接種実験）実施ガイドライン」が作成され施行された。

### 廃液等環境分野

各診療科・薬剤部・研究室で発生する実験廃液、廃試薬については、各キャンパス毎に専門業者による引取処理が行われており、排水については施設課、施設部、市の下水道課、専門業者などキャンパス毎に異なるものの、定期的な水質検査を行い、法令に遵守した排水基準を保っている。ゲノム医学研究センターにおいては、「組換え DNA 実験指針及び実験系廃棄物処理の手引」を学内ホームページに掲載し、それに従って各研究者が廃液等の処理を行うことにしている。また廃棄物委員会の下部組織として廃棄物小委員会を設置し、手引きには記載されない新たな薬品について、個別に迅速に対応できるようにしている。

### DNA 分野

昨年度途中で副部門長および組換え DNA 実験安全委員会委員長が禾泰壽教授（分子生物学）から三谷幸之介教授（ゲノム医学）に代わり、今年度は部門員と委員会メンバーの交代があった。第二種拡散防止措置申請書類の審議の仕方も三谷委員長により改正され、それまでは委員長・副委員長による随時審査と年 1 回開催の委員会での各委員による分担審査の方式であったが、各申請書の審査をそれぞれ 2 人の委員に配分し、申請書と審査結果を学内ホームページで全委員が閲覧できるシステムに改められ、審査方法を各委員が学び共有出来るようになった。

### 動物分野

学内にて実施される全ての動物実験は、各キャンパスに設置されている動物実験小委員会そして埼玉医科大学の動物実験委員会により動物実験計画書の審査・承認が行われている。平成 23 年度各キャンパスから提出された動物実験計画書 180 件、実験室設置承認申請書 15 件、飼養保管施設設置承認申請書 1 件、動物実験結果報告書・動物実験（終了・中止）報告書 17 件、追加変更届 48 件について審議の結果承認した。さらに、随時メール会議を開催し、円滑に動物実験計画書、実験室設置承認申請書、飼養保管施設設置承認申請書の審議を行い承認した。また、遺伝子組換え生物等を使用した動物実験は、組換え DNA 実験安全委員会により第二種使用等拡散防止措置承認申請書の審査・承認が行われ、適切な研究が実施されているが、今後、細菌あるいは遺伝子組換え生物等を用いた感染動物実験の需要が高まる傾向が予想され、学内での感染動物実験の審査・承認に向けた規程そして関連書類の整備に向け準備を整える予定である。

### 薬物分野

文科省の「農薬危害防止運動」実施依頼に基づき、研究用試薬の管理の徹底を求めるメールを全研究者に送信した。また、出入室管理や防犯カメラの設置の必要性を同時に論じた。その他の管理対象物のうち、麻薬については麻薬研究者免許申請および麻薬譲受・譲渡に関する説明を研究センター安全管理部門のホームページに掲載し、申請時の稟議書のコピーを部門長が保管することにより、麻薬の使用状況を把握できるようにした。今後同様に他の管理対象物についても管理体制を整備していく予定である。

## RI 分野

放射性同位元素の安全取扱いに関する新規教育訓練（放射線の人体に与える影響、放射性同位元素安全取扱い、放射線障害防止関連法規、放射線障害予防規程）を 3 回（H23.5.26, H23.5.27, H23.12.6）開催した。基礎医学棟 B2F 会議室で午前 10 時より午後 16 時 30 分まで行い、参加者は各々 3 名、2 名、5 名であった。既登録者のための再教育訓練は 3 月に開催した。その他、東北地方太平洋沖地震による福島原子力災害後、埼玉医科大学構内（毛呂山キャンパス）の放射線量の測定を行い、学内ホームページで確認できるようにした。

医学研究センター

研究支援管理部門

松下 祥  
(部門長)

1年以上前から予告して参りましたように、平成24年度より学内グラントのシステムが変わります。丸木記念特別賞枠と一般枠の2種類で選考が行われるようになります(表1)。特に一般枠は科研費振興策の一環として設けられました。

本学は前回の外部認証評価時に科研費の申請率の低さを指摘されておりますので、今回の受審にとっても必要不可欠なシステムであります。また、このシステムが動き始めますと、グラントの執行開始を7月に持てくることができるようになります。

表2には教員数からみた文科省科研費申請件数の推移を示しています。10年前には申請率は31%ありましたが、現在は14-15%にまで半減しています。しかし、採択率では健闘していますので、総採択額では微増傾向にあります。図1は資格別の応募件数です。助教が約10%で最低ではありますが、実はグループの雰囲気作りのカギとなる若手中堅(講師クラス)の17.8%という低さのほう

が深刻な問題なのかもしれません。表3は助教の申請件数の内訳です。例えばゲノムでは、6人いる助教のうち申請しなかった先生が一人いますが、そのかたはすでに科研費を持っています。つまり実質100%の申請率である、と読めます。表4には国公立私立を問わず単科系医科大学の採択額順位を示しています。本学は23位ですが、周辺を見回して頂きますと、もう少し頑張っていけるのではなからうか、と思うのは私だけでしょうか？

科研費の振興策は学内グラントシステムの変更だけではなく、利用しやすい共同利用施設の整備などとも密接な関連を持っていると思われます。引き続き注意深い分析を行って改善策を打ち出していきます。

表1. 新学内グラント：平成24年度より

**新学内グラント：平成24年度より**

学内グラント(丸木記念特別賞)と学内グラント(一般)の二本立てで選考する。

**1) 丸木記念特別賞**  
成果に重きを置いた選考を行い、上位1~2名に賞状+特別助成金を与える。

**2) 一般**  
文科省(学振)に提出した科研費研究計画調書とフィードバックのハガキ(点数記載有り)による選考を行う。

表2. 教員数からみた申請件数等の推移

教員数からみた申請件数等の推移							
年度	教員数	申請件数	申請率	新規採択数	採択率	総採択額(千円)	備考
平成14年度	780人	248件	31.79%	29件	11.69%	¥122,900	
平成15年度	791人	218件	27.56%	34件	15.60%	¥151,040	
平成16年度	851人	219件	25.73%	30件	13.70%	¥143,450	
平成17年度	890人	207件	23.26%	26件	12.56%	¥118,700	
平成18年度	967人	209件	21.61%	30件	14.35%	¥122,200	電子申請導入 保健医療学部開設
平成19年度	1116人	220件	19.71%	33件	15.00%	¥153,913	研究支援課設置 国医セ開設
平成20年度	1144人	247件	21.59%	38件	15.38%	¥152,315	基盤研究2-4年間から3-5年間へ
平成21年度	1172人	200件	17.06%	26件	13.00%	¥130,896	全種目が電子申請
平成22年度	1175人	171件	14.55%	42件	24.56%	¥154,162	
平成23年度	1185人	182件	15.36%	38件	20.88%	¥170,042	
平成24年度	1183人	175件	14.79%	?	?	?	
平均	1023人	209件	20.40%	33件	15.62%	¥141,962	

**文部科学省科学研究費DATA**

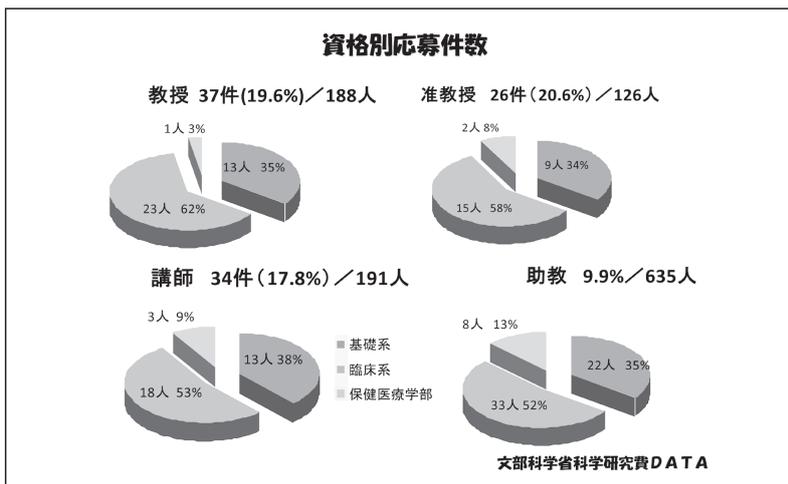


図 1. 資格別応募件数.

表 3. 平成24年度 助教の申請件数の内訳

### 平成24年度 助教の申請件数の内訳

分類		申請した先生		申請しない先生		既に科研費を持っている先生		総数
医学部	基礎医学	12人	71%	5人	29%	2人	12%	17人
	ゲノム	5人	83%	1人	17%	1人	17%	6人
	共通部門	3人	38%	5人	63%	0人	0%	8人
	臨床系	33人	6%	550人	94%	13人	2%	583人
保健医療学部		8人	38%	13人	62%	1人	5%	21人
合計		61人	10%	574人	90%	17人	3%	635人
臨床研修医	前期	0人	0%	120人	100%	0人	0%	120人
	後期	0人	0%	4人	100%	0人	0%	4人

文部科学省科学研究費 DATA

表 4. 平成23年度 単科系医科大学 採択額順位

### 平成23年度 単科系医科大学 採択額順位

順位	機関名	採択件数	配分額(千円)
1位	順天堂大学	273件	¥590,390
2位	北里大学	276件	¥563,050
3位	京都府立医科大学	224件	¥475,170
4位	浜松医科大学	188件	¥448,030
5位	昭和大学	206件	¥388,630
6位	札幌医科大学	171件	¥387,990
7位	自治医科大学	149件	¥352,720
8位	滋賀医科大学	151件	¥351,680
9位	奈良県立医科大学	143件	¥284,440
10位	兵庫医科大学	122件	¥273,060
11位	和歌山県立医科大学	164件	¥269,880
12位	東京女子医科大学	124件	¥257,990
13位	日本医科大学	149件	¥254,930
14位	東京慈恵会医科大学	142件	¥245,330
15位	岩手医科大学	139件	¥231,840
16位	関西医科大学	93件	¥221,160
17位	東邦大学	134件	¥219,970
18位	福島県立医科大学	129件	¥217,540
19位	産業医科大学	115件	¥199,580
20位	藤田保健衛生大学	100件	¥191,960
21位	旭川医科大学	99件	¥191,950
22位	金沢医科大学	75件	¥170,820
<b>23位</b>	<b>埼玉医科大学</b>	<b>97件</b>	<b>¥170,220</b>
24位	東京医科大学	78件	¥160,940
25位	大阪医科大学	90件	¥151,390
26位	杏林大学	82件	¥143,550
27位	川崎医科大学	73件	¥132,340
28位	聖マリアンナ医科大学	66件	¥125,580
29位	防衛医科大学校	51件	¥122,190

文部科学省科学研究費 DATA

## 医学研究センター

## フェロシップ部門

丸山 敬  
(部門長)

## 1. 部門概観

## &lt;部門員構成&gt;

- 部門長 丸山 敬：薬理学（教授）  
副部門長 森 茂久：医学教育センター, 総合医療センター血液内科（兼担）, 大学病院血液内科（兼担）（教授）  
部門員 別所正美：学長／医学部長  
齋藤一之：法医学（教授）  
片桐岳信：ゲノム医学研究センター病態生理部門（教授）  
名越澄子：消化器内科・肝臓内科（教授）  
木村文子：国際医療センター画像診断科（教授）

## &lt;活動目的&gt;

研究科委員会や医学教育センター大学院教育部門との連携のもとに、常勤教員以外の研究者（非常勤研究者）の経済的・身分的支援を目的とする。

## &lt;業務&gt;

1. 私費外国人留学生等奨学生の選考
2. 非常勤研究員の審査・登録
3. 非常勤研究員の身分証明
4. 専攻生授業料免除の審査
5. 各種非常勤研究員の身分的位置づけおよびその他の支援体制の確立
6. 上記と関連して規定集（専攻生、協力研究員、特別協力研究員、特任研究員）の確認

## 2. 平成22年～23年の活動

- 庶務課の尽力により、奨学金募集並びに支給はほとんど問題なく遂行されている。今後とも不測の事態には教員と事務部門が協力して対応することを確認した。

## &lt;私費外国人留学生等奨学生の選考について&gt;

- 平成23年3月の申請者は日本人1名であった。翌月（平成23年4月）より大学院2年生に進級する。様々な議論があったが、助成に値する研究能力を備えていると評価した。
- 平成22年9月に採用されたトルコ共和国よりの留学生1名は福島原発事故を理由として帰国することになった。そのため平成23年6月をもって支給を辞退することを了承した。
- 平成23年9月の募集には申請者がいなかった。

## &lt;日本人研究者の補助について&gt;

- 本フェロシップは基本的には外国人研究者を対象としている。日本人枠については、外国人申請者4名以上がすべて初めての受給申請の場合は、外国人を優先するが、受給歴のある外国人よりも1人を限度として、研究歴や研究能力が相応の日本人（博士課程最終学年か博士研究員を想定）を選別可能とした。日本人の選考は、以下の順で優先することにした。この選考基準は将来的にも基準となると判断した。  
(1) 学位取得者、受給開始日までに取得予定者とする。（ポストドクを想定）

- (2) 大学院最終学年在籍者を優先する。(学振の DC2 を想定)
- (3) 本学の無給常勤研究員, 大学院生, 研究生。(研究歴/能力を勘案)
- (4) 同じ条件の場合は年長者を優先する。(社会的必要性を考慮)

#### <平成 24 年度以降の制度について>

- 全学的な問題であり, 種々の状況を勘案しつつ, 慎重に検討する。保健医療学部大学院の創設に伴い, 大学院生の研究支援についても議論・提案した。
- 鈴木正彦保健医療学部教授にも参加していただいて議論した。
- 初期研修医学博士コース(仮称)として大学院授業料相当額を支給して研修医の大学院研究を支援することを提案した。
- 研修医以外の修士課程および博士課程大学院生にも数万円の奨学金を支給し, 卒業後研究職に就任する場合には免除することを提案した。
- 博士研究員には研究費を提供することを提案した。

### 3. 現状と今後の課題の総括

#### <新しい研究支援制度について>

- 平成 23 年度の議論を踏まえて制度整備を行っていく。

#### <私費外国人留学生等奨学生の名称について>

- 外国人に限定されないことから, 名称を検討していく。

(文責 丸山)

## 医学研究センター

## 研究評価部門

椎橋 実智男  
(部門長)

研究評価部門の現在の主な活動は、本学独自の研究業績データベースシステム(「業績プロ」)の運用による本学の研究業績のデータベース化、および、独立行政法人科学技術振興機構が運用する「研究開発支援総合ディレクトリ(ReaD)」(2011年11月からは「新世代研究基盤リード&リサーチマップ(ReaD&Researchmap)」に移行)と連携した本学の研究業績の公開である。これらを通して、本学の研究活動の発展に寄与すべく活動を続けている。以下に、最近の状況を報告する。

## 1. 新世代研究基盤リード&amp;リサーチマップ(ReaD&amp;Researchmap)とは

ReaD&Researchmapサービスは、独立行政法人科学技術振興機構イノベーション推進本部知識基盤情報部が提供している。かつてのReaDシステムは国内の大学・公的研究機関等に関する研究機関情報、研究者情報、研究課題情報、研究資源情報を収集・提供することを主な目的としていたが、国立情報学研究所社会共有知研究センターが研究開発・提供するResearchmapシステムと統合され、研究に関わるデータベース機能だけでなく、研究者のポータルサイトとしての機能も兼ね備えた「総合的な研究活動支援サイト」となっている。

<http://researchmap.jp/>

## 2. 本学独自の研究業績データベースシステム(「業績プロ」)について

## 1) 概要

業績プロは、本学独自の研究業績データベースシステムで、本学の研究者の研究に関わる情報を蓄積し、学内に公開するシステムである。現在、医学部と保健医療学部をあわせて1,352名(平成24年1月1日)の研究者が登録されている。

<http://mrc-gdd.saitama-med.ac.jp/smsap/P300>

(医学研究センターのホームページからもリンクあり)

## 2) 運用の状況(平成24年1月まで)

- 5月 保健医療学部の教員に対する利用説明会の実施
- 5月 中央研究施設を利用した研究成果のデータの提出
- 7月 研究に関わる人事考課のためのデータダウンロード(各研究者が実施)
- 7月 ReaDとのデータ交換の実施
- 8月 大学病院への研究業績の提出(特定機能病院)
- 11月 ReaDがReaD&Researchmapに移行  
WEBによるデータ交換サービスの開始